第85巻　第2号
年４回発行
社会福祉法人 慈生会
〒165-0022
東京都中野区江古田３-15-２
ＴＥＬ 03―3387―5567
http://www.jiseikai.jp
振替口座　ベタニアの家
00170－６－15317

地域に開かれた施設・事業を

薄井 康紀

数年前から、西武線の江古田駅周辺で毎年秋に「江古田のまちの芸術祭」というイベントが開かれています。元々は練馬区内のイベントだったのですが、私の友人U氏(中野区在住)の声かけで中野区江古田周辺からもいくつかの福祉施設などが参加しています。慈生会はその時期に適当なイベントがなく参加していませんが、昨年の十一月二日、三日にはNPOチャレンジャーズ江古田プロジェクトがマンション街にある「えごたいえ」の一角で「えごた村の成立と発展」と題した展示を行いました。その中に中野区江古田の歴史を語る上で欠かせないものとして、国立中野療養所とその周辺（東京コロニーとベタニアの家）の紹介がありました。新しい住民もおられる中で地域の皆さんに慈生会や創立者のフロジャク神父様について知っていただくよい機会になったと思います。

慈生会の事業は多くが入所施設ですが、地域にあって地域の人々の理解と協力の下に事業を進めていくことが求められています。まして在宅関係の事業は地域から離れて考えることはできません。

コロナ禍の下で地域との関わりが少し希薄になっていましたが、那須地区の光星祭、清瀬地区のどんぐり祭といった行事が復活してきています。このようなイベントは地域とのつながりを深める意義深いものですが、一過性のイベントを超えて、地域の福祉の中で慈生会の各施設・事業を考えていかなければならないと思います。

事業によって地域との関わり方は異なりますが、ボランティアや実習生の受入れも地域との関わりと言えるでしょうし、地域の方々を対象とした集いの場、相談の機会の提供などもあるでしょう。事業自体がそも地域の福祉の輪の一翼を担うことが期待されているものもあります。なお、地域に開かれることによって第三者の視点が入り、利用者にとってより適切なサービス提供につながる側面もあると思います。

人と人の関わりが希薄になっているとされる現代社会において、それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるように関係者がお互いに協力して取り組むことが求められています。地域包括ケアの推進は高齢者にとどまらない課題ですし、近年は地域共生社会の実現ということも目指されています。慈生会とそこに働く私たちの力は、このような地域のトータルとしての福祉の推進に大きな役割を果たすことができるものと考えます。日々の仕事が忙しい中ではありますが、より地域に開かれた、地域社会に貢献できる施設・事業を目指していければと思います。

（慈生会常務理事）

ベタニアの家　永年勤続表彰者
学校法人　東星学園
（二十年表彰）

中・高等学校　畠中 知早子
中・高等学校　田部井和賀子
中・高等学校　田原 祥子

学校法人　東星学園の永年勤続表彰式が令和８年３月19日に執り行われました。20年勤続3名の方々が表彰されました。今後益々のご活躍をお祈りしております。

育ちあうショートステイ室にじ

小林　一美

ナザレットの家における乳幼児ショートステイは、事業開始から間もなく三年目を迎えようとしています。ショートステイ（子育て短期支援事業）とは、保護者の疾病や育児疲れ、その他の理由により家庭においてこどもを養育することが一時的に困難となった場合等に、短期間だけこどもを預けることができるサービスです。一年目は東久留米市との委託契約のみでのスタートでしたが、二年目には新たに西東京市からも委託を受け、ショートステイ担当職員も5名から6名に増員されました。

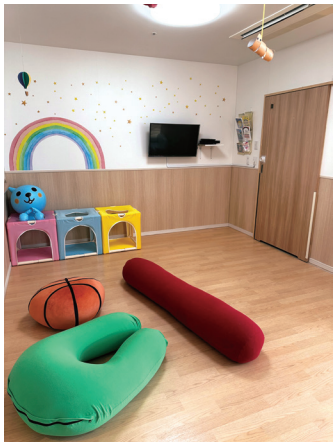
初年度にショートステイ室に配属された職員は、事業のイメージが持てず不安もあったようですが、利用の増加とともに試行錯誤を重ね、「〝にじ室〟らしい支援の形」が整いつつあり、今ではやりがいと楽しさを感じているとの声が聞かれています。また他部署の職員からも「ショートを経験すると養育者としてのスキルが上がるように感じる」との嬉しい評価もいただいています。

お預かりの時はご家族とのお別れに涙していたお子さんが少しずつ慣れて笑顔で過ごせるようになる姿や、利用を重ねるごとに明るくなっていくご家族の表情を見る度に、本事業の意義を深く実感しています。

児童虐待件数は年々増え続け、令和5年度は過去最多となっています。ショートステイは、ご家族が育児疲れや不安から解放され、ほっとできる時間を持つことにより虐待の減少につながるのではないかと期待されています。

今年度は二月現在で延べ六〇〇日を超える利用があり、ニーズの高さも明らかとなりました。今後は所在地である清瀬市をはじめ、近隣自治体との委託交渉を進め、地域の子育て世帯が更に安心して利用できる体制づくりを目指し、歩んでいきたいと思います。

（地域子育て支援室主任）



「ありがとう」があふれる日々

田村　友美

フルールは、地域の皆様やご家族の温かい支えにより今年で4年目を迎えることができました。現在、生活介護事業は15名、就労継続支援B型には12名の方が契約されており、毎日個性あふれるご利用者の皆さんの笑顔とエネルギーに包まれながら活動しています。その姿に私たち職員も元気をもらい、共に学び成長する日々を過ごしています。

生活介護では、畑仕事や事業所周辺の環境整備を中心に、体を動かしながら楽しく取り組んでいます。また、季節を感じられる創作活動にも力を入れており、節分では新聞紙を使って豆まき用の豆を作り、バレンタインデーには心を込めた手作りカードを作成しました。自分たちで作ったものが実際に使われることで、参加した、役に立ったという実感や喜びに繋がっています。さらに、就労Bで行っている作業の一部を手伝い、工賃につなげるなど、意欲や達成感を大切にした活動も行っています。

就労Bでは、お菓子づくりと販売、他事業所から受託している箱折りや箱詰め作業をしています。お菓子づくりでは、しっとりとした食感と濃厚なチョコレートの味わいが特徴のブラウニーを、多くの方に食べて喜んでいただけるよう試作に取り組んでいます。フルールの定番商品になることを目指して、改良を重ねています。また就労Bの箱詰め作業で出た段ボールの片付けを生活介護のご利用者が担うなど、みんなで協力しながら作業が進む場面も多く見られます。障害や性別、年齢の垣根を越えた関わりの中で、互いに刺激を受け合い、一人ひとりがいきいきと輝いています。

フルールは、「ありがとう」が自然とあふれる場所です。ここで生まれる感謝の気持ちをこれからも周りの方々へと広げていけるよう、笑顔いっぱいで歩んでいきたいと思います。

（多機能型事業所フルール生活支援員）

ベタニア修道女会の新しい活動

シスター川鍋　真澄

わたしたちの修道会は6年毎に定期総会という大きな会議を行います。今回の会議では、清瀬地区の2つの修道院を一つに統合して、一方の修道院を拠点とし、ベタニア・ベトレヘム宣教センターとしてスタートすることが決定されました。

新しい活動の場とするため、修道院だった建物は整備され、いくつかの宣教室と短期黙想で宿泊の可能なお部屋、食堂などが準備されました。また、統合前からすでに修道院の宣教室では「よつ葉の会」「修道院でホッと一息しませんか」といった活動は始まっていましたが、ほかに会独自の使徒的活動として、宣教室を使用した新たな活動であるカテケジスや日帰り黙想会、研修会なども開催予定です。また「こもれび」の活動サポートやシスターたちとの交流も始まろうとしています。

定期総会のテーマである「奉献生活を通し、変動し続ける教会・社会の中で預言的な証しとなる」を掲げ、特に「創立者のカリスマの独自性」についての共通理解の分かち合いがありました。創立者の始められた事業は文字通りの事業ではなく「ベタニアの家」であること。そして、私たち姉妹はその「家」を建て続けること、そしてそこから「神さまのいつくしみを伝えること、生まれさせること」その使命を生涯かけて行うこと、証し続けることなのだ、と。この総会を通して、あらためてここにすべての始まりがあるのだ。ということの再確認ができました。

新たに誕生したベタニア・ベトレヘム宣教センターが、創立者の始められた事業「ベタニアの家」を継承する一つの形でありますように。訪れる人に神さまの愛と、いつくしみ、温かさを提供する「ベタニアの家」でありますように。私たちの活動を通して多くの方々のこころに愛といつくしみが伝わりますように。そこに神の愛が生まれることを願っています。

（ベタニア修道女会）

中野トータルサポートセンターの今後

齋藤　裕和

２０１６年中野トータルサポートセンターが発足し１０年目を迎えました。中野地区の各事業所の横のつながりを強めることで更に良質のサービスを利用者の皆様へ提供していくとのことで始まりました。

中野トータルサポートセンターとは、地域包括支援センター「中野区江古田地域包括支援センター」、居宅介護支援「慈生会中野ケアプランセンター」、訪問介護「ベタニアヘルパーステーション」、訪問看護「中野北ベタニア訪問看護ステーション」、認知症対応型通所介護「ベタニアデイ・ホーム星」、軽費老人ホーム「慈しみの家」、介護老人福祉施設「ベタニアホーム」と7事業所から成り立っています。利用者様には様々なサービスを安心して提供できるよう各事業所と連携を取っています。

昨今、介護業界は全産業との賃金格差が拡大し、新たな打開策として厚労省は処遇改善加算の対象事業所拡大等で対応を行っています。

またケアマネの平均年齢が54・3歳で上昇傾向にあり人数も減少傾向にあり介護事業所全体の37・5％の事業所が赤字経営を余儀なくされています。そこで国は臨時介護報酬改定を6月に行い巻き返しを狙います。このように介護業界は暗い話題ばかりが続いており厳しい状況に置かれています。

中野トータルサポートセンターでは管理者の世代交代を迎える事業所も多く、今までの概念にとらわれず新たなチャレンジを挑戦し職員一丸となって乗り越えて、地域の高齢者を支援して行きたいと思います。

（中野トータルサポートセンター　事務長）

ＳＤＧｓの中心的な理念「誰一人取り残さない社会」を実現するにあたり、福祉事業所の取り組みは、目標１の「貧困をなくそう」における非常に重要な役割を担っています。これは、人びとの生活を守るためのきちんとした仕組みづくりや対策をおこない、貧しい人や特に弱い立場にいる人たちが十分に守られるようにする目標になります。

市町村、相談支援事業所、社会福祉協議会等、マ・メゾン光星のような福祉施設(以下、福祉関連事業所)は、障害のある方が地域で自立した生活を送るために、地域の皆様から様々な相談をお受けしますが、貧困状態にある障害者からの相談も少なくありません。

ここで自分が関わったケース紹介をします。精神疾患のあるＡさんは高齢の母と２人暮らしでしたが、収入が無く、母の老齢年金で暮らしていました。その後あることから母が家を出てしまいＡさんはお金のない状況になってしまいました。前日に雪が降ったある日訪問すると、灯油が無くなり寒い室内で震えながらうずくまるＡさんを発見しました。食事は何日も食べておらず、憔悴しきって動けなくなっていたので、マ・メゾン光星で緊急保護しました。その時にＡさんが「ここは暖かくて助かった」と涙を浮かべながら話していたのが今も心に残ります。

多くの障害のある方が少ない収入で暮らしています。何か少しのトラブルで生活出来なくなることも珍しくはありません。福祉関連事業所はそういった方々の生活を支えるための支援もしています。仕事を探すことから、障害年金の申請の手伝い、その日の食事に困った方にはフードバンクの食材を持って行くこともあります。

ＳＤＧｓの前文には「わたしたちは、持続可能な世界を築くためには、極度の貧困をふくめ、あらゆる形の、そして、あらゆる面の、貧困をなくすことが一番大きな解決しなければならない課題である」という一文があります。障害のあるなしに関わらず、全ての方が生活に困らないような社会になっていけたらと思います。

(マ・メゾン光星　通所部運営責任者　早乙女　智)

訃報

シスターアンジェラ　松浦　和子

一九二七年　生
一九六九年　九月二九日　誓願
二〇二六年　二月十一日　帰天
三月　四日　立生
ベタニア修道女会

編集後記

ベトレヘム学園では普段見慣れないハクビシン、アライグマ等と遭遇することがあります。一月の下旬のことですが、夜の二十時頃に中庭に何やら大きな鳥が飛んできたのに気づき、よく見てみたら、フクロウでした。中庭の二階の柵にしばらくとまっていましたがどこかに飛んで行きました。フクロウは縁起物とされ「福来郎(福が来る)」ともいわれるようです。夜になると、また来ないかなと気になっています。

(関　広宣)

先日東京ディズニーシーに行き、シンドバッドが様々な仲間の協力を得ながら数々の困難を乗り越える冒険アトラクションを体験しました。そこで流れる曲の歌詞にとても感銘を受けました。「ついに見つけたよ宝物、宝石や黄金じゃなく、旅の中でめぐり合った素晴らしいぼくの友達。人生は冒険だ、地図はないけれど、宝物探そう、信じてCompuss of your heart」正解が無い日々を、仲間と共に信じた方向に進んでいく。大切な言葉を一つ貰えた気がしました。

(杉山　智和)

教皇レオ十四世は、今年の１月10日から１年間「聖フランシスコの特別聖年」を公布されました。教皇様はこの特別聖年に『キリスト信者は聖フランシスコの模範に従って、自らも生活の聖性の模範、絶えざる平和の証人とならなければなりません』と願われています。平和という言葉が揺らぐこの時。この特別聖年は宗教を超え、すべての人がともに平和の証人となるよう招くものではないでしょうか。どうかこの特別聖年がすべての人の心へ平和をもたらす希望でありますように。

(Sr川鍋　眞澄)